

2020 年 10 月東大本番レベル模試 地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定用語不使用は，指定用語 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

- 1. <□□□□> 加点ポイント
- 2. □□□□× 事実誤認あり
- 3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。

第1問 (20点)

設問A

(1) 1点 43億トン炭素 (※単位違い・単位無しは不可)

(2) 3点

草木を燃焼させる焼畑の増加で二酸化炭素放出量が増え、熱帯林の減少で光合成量、すなわち二酸化炭素吸収量が減った。(2行)

【加点ポイント】

- ① (土地利用変化) 焼畑／焼畑農業／森林を畑(耕作地)にする／農地開発 →1点
- ② (①で)「草木の燃焼／焼いて灰を作る」ことで「二酸化炭素が増加」 →1点
- ③ (①で)「熱帯林の減少／樹木の伐採／光合成量の減少」により「二酸化炭素吸収量の減少」 →1点

(3) 1点

人口の多い新興国の経済成長が、化石燃料消費量を増やした。(1行)

【加点ポイント】

- ① 人口増加／新興国(中国など)の経済成長 →1点

(4) 3点

大気中の二酸化炭素濃度の上昇とそれがもたらす地球温暖化により、植物の光合成が盛んになり、二酸化炭素吸収量が増加した。(2行)

【加点ポイント】

- ① (地球環境の変化) 二酸化炭素濃度の上昇／大気中の二酸化炭素量の増加 →1点
- ② (地球環境の変化) 地球温暖化／温暖化 →1点
- ③ (①②により) 植物の光合成が盛んになった／光合成量の増加
／光合成による二酸化炭素吸収量の増加 →1点

設問B

(1) 1点 (完答)

(イ)－イタリア (エ)－インド (カ)－オーストラリア

(2) 4点

(ア)は原発事故後の原子力発電の停止によって、火力発電量が増加して燃料の輸入が増加した。(イ)は豊富な日射量や地熱をいかした自然エネルギーを積極的に導入し、燃料の輸入が減少した。(3行)

【加点ポイント】(※1)の可否は不問)

- ① ((ア)の変化について) 燃料の輸入が増加/自給率が下がった →1点
- ② (①の要因) 原子力発電の停止/原発事故/東日本大震災後に火力発電が増加 →1点
- ③ ((イ)の変化について) 燃料の輸入が減少/自給率が上がった →1点
- ④ (③の要因) 自然エネルギーの導入/太陽光発電(地熱発電/風力発電)の増加 →1点

(3) 3点

エネルギー源の多くが国内で豊富に産出する石炭であり、脱硫装置が未整備の状態での燃焼により深刻な大気汚染が発生している。(2行)

【加点ポイント】(※1)の可否は不問)

- ① (一次エネルギーの供給要素) 石炭 →1点
- ② (環境問題) 大気汚染 →1点 (※「二酸化炭素排出」「温暖化」では加点しない)
- ③ (②の要因) 脱硫(脱窒)装置が未整備/硫黄酸化物や窒素酸化物の大量排出
/硫黄酸化物や窒素酸化物の排出規制の遅れ →1点

(4) 4点 (各2点×2)

・(オ)は国内産業や生活水準の発展で、電力消費量が増加した。(1行)

【加点ポイント】

- ① 電力消費量が増加した/自給率が低下した/石油の国内消費量が増加した →1点
- ② (①の要因) 国内産業や生活水準の発展/工業化が進展/冷房設備の普及 →1点

・(カ)は中国での需要急増で、輸出向け石炭産出量が増加した。(1行)

【加点ポイント】(※1)の可否は不問)

- ① 輸出向け石炭産出量が増加/石炭の輸出が増加/自給率が上昇した →1点
- ② (①の要因) 中国での需要増加 →1点
(※①②を併せて「中国への石炭輸出が増加した」→2点)

第2問 (20点)

設問A

(1) 1点 (完答)

A－メキシコ B－インド C－トルコ

(2) 3点

サウジアラビアは建設労働に従事する男性が多く、ハイテク産業等に従事するアメリカ合衆国のインド出身者より所得水準が低い。(2行)

【加点ポイント】

- ① (サウジアラビアでの職種) 建設労働／肉体労働／石油産業／第二次産業 →1点
- ② (アメリカ合衆国での職種) ハイテク産業／情報産業／技術者／コンピューター関連
／ソフトウェア開発 →1点
- ③ (所得水準) サウジアラビアの方が低い →1点

(3) 3点

アメリカ合衆国には看護や介護の仕事に就くフィリピン出身女性が多いが、優秀な人材が流出する本国では、人手不足が生ずる。(2行)

【加点ポイント】

- ① (多い職種) 看護／介護／医療従事者 →2点 (※「家事労働」では加点しない)
- ② (本国での問題点) 優秀な人材が流出する／人手不足 →1点

(4) 3点

好況時に西ドイツ企業が低賃金労働力として雇用したが、熟練工の多い旧東ドイツや東欧への工場移転で余剰労働力となったため。(2行)

【加点ポイント】 ★(1)で、「C－トルコ」を正解していることが加点の前提

- ① (C出身者が多い理由) 労働力として雇用した／ガストアルバイターとして雇用した
／戦後の人手不足の時期に二国間協定を結び受け入れた →1点
- ② (C出身者の失業理由) 旧東ドイツへの工場移転／東欧への工場移転
／ドイツで産業の空洞化が起こった →1点
- ③ (②の理由) 旧社会主義国には低賃金の熟練工が多い
／旧東ドイツや東欧諸国の方が生産コストが安い →1点

設問B

(1) 1点 (完答)

Aー鉄鋼 Iー自動車 Uー自動車部品

(2) 4点

輸出加工区，経済特区等に外国企業を誘致することで輸出指向型の工業化が進み，一次産品を輸出して工業製品を輸入する垂直分業から，互いに工業製品を輸出し合う水平分業の関係へと変化した。(3行)

【加点ポイント】

- ① (変化前は) 一次産品を輸出して工業製品を輸入する
 ／農産物や原燃料を輸出し工業製品を輸入する／垂直分業であった →1点
- ② (変化後は) 互いに工業製品を輸出し合う
 ／部品や半製品を日本から輸入し，製品にして輸出する →1点
- ③ (②の国際分業体制は) 水平分業である →1点
- ④ (②③の背景) 輸出加工区を設置／経済特区を設置
 ／外国企業を誘致／外国の資本・技術を導入 →1点

(3) 1点 (完答)

Xー茶 Yーコーヒー豆 Zー切り花

(4) 4点 ※ [指定語句] 温帯の初夏 ドバイ国際空港 標高 3つ全て 下線付きで使用
低緯度で標高が高く，花卉栽培に適する温帯の初夏のような気温が一年中続く。また，ドバイ国際空港のハブ空港化で，ヨーロッパや東アジアの大消費地へ短時間で商品を空輸できるようになった。(3行)

【加点ポイント】 ★(1)で、「Zー切り花」を正解していることが加点の前提

- ① 花卉栽培に適する温帯の初夏のような気温が一年中続く
 ／一年中温帯の初夏のような常春気候で花を育てやすい →1点
- ② (①の理由) 「低緯度／熱帯の地域／赤道近く」で「標高が高い」 →1点
- ③ ヨーロッパや東アジア (日本など) へ短時間で輸出できる／大消費地へ空輸できる →1点
- ④ (③の背景) ドバイ国際空港がハブ空港となった／ドバイ国際空港を經由して輸出する →1点

第3問 (20点)

設問A

(1) 2点

A-IV B-II C-III D-I

※4個正解 →2点 1~3個正解 →1点 0個正解 →0点

(2) 2点

冬の積雪による農閑期の労働力を用いた家内工業が立地した。(1行)

【加点ポイント】

★(1)で、「D-I」を正解していることが加点の前提

- ① (主要産業) 家内工業/地場産業/小規模企業/熟練工による消費材生産 →1点
- ② (自然条件) 積雪が多い/冬は雪のため農閑期となる →1点

(3) 4点

Aに立地する基礎素材工業は工程の大半が自動化した装置産業だが、Bに立地する自動車工業は労働集約的な加工組立工程が多い。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で、「A-IV」と「B-II」両方を正解していることが加点の前提

- ① (Aの産業) 基礎素材工業/製鉄(鉄鋼業)や石油化学 →1点
- ② (①の特徴) 大半が自動化/装置産業/機械化が進んでいる/少ない人手で運営可能 →1点
- ③ (Bの産業) 自動車工業/自動車産業 →1点
- ④ (③の特徴) 労働集約的/組立工程が多い/人手が多く必要 →1点

(4) 3点 ※ [指定語句] 混在 住民 騒音 3つ全て 下線付きで使用

大都市圏の住宅と工場が混在する市街地に立地するため、操業に伴う騒音・振動などの公害を防止し住民との共存を図る必要がある。(2行)

【加点ポイント】

- ① (立地の特徴) 住宅と工場が混在する市街地に立地/工場の近くに住宅地が混在する →1点
- ② (工場操業上の課題) 騒音などの公害を予防する
/住民に騒音などの迷惑をかける可能性がある →1点
- ③ (課題解決のため) 住民との共存を図る/地区の住民との相互理解を図る
/行政による土地利用の調整などが必要 →1点

設問B

(1) 1点 出版業／新聞業 (※「印刷業」は不可)

(2) 4点

石油危機後の産業構造の転換と交通網の整備によって、電子機器工業の労働集約的な部門が賃金水準の低い地方圏で立地を進めた。(2行)

【加点ポイント】

- ① (立地の要因) 産業構造の転換／重厚長大型から軽薄短小型の工業に変わった →1点
- ② (立地の要因) 交通網の整備／高速道路の整備／地方空港の整備 →1点
- ③ (立地の要因) 賃金水準が低い／用地が広くて安い／生産コストが安い →1点
- ④ (立地産業) 電子機器工業／IC工場／半導体／エレクトロニクス関連
／ハイテク製品／デジタル家電 →1点

(3) 4点 ※ [指定語句] 円高 アジア 自動車 3つ全て 下線付きで使用

円高を契機に東北の製造拠点はアジア諸国に移動したが、九州では近接するアジア市場を背景に自動車関連産業の立地が進んだ。(2行)

【加点ポイント】

- ① (東北は) 製造拠点がアジア諸国に移動した／製造業従業者数が減少した
／産業の空洞化が起こった →1点
- ② (①の要因) 円高／アジア各国の工業化の進展／アジア諸国の方が賃金水準が低い →1点
- ③ (九州は) 自動車関連産業の立地が進んだ／自動車工場が多く進出した →1点
- ④ (③の要因) アジア市場に近い／アジアとの国際分業に便利 →1点